

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 岡崎市立城南小学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例：小中高一貫)
所在地 〒444-0835 岡崎市城南町一丁目 11 番地
E-mail jonan@st.oklab.ed.jp
Website _____
幼児児童生徒数 男子 190 名 女子 193 名 合計 383 名
幼児・児童・生徒の年齢 6 歳～12 歳

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は「ふるさと創生 愛プロジェクト」を活動テーマとし、ESD を「夢をもち、ふるさとを愛する心を育てる教育」と捉え、ESD の実践を通して、「地域を愛し、愛着をもつ心を育てること」と「夢を語り、自分を表現できる力を育てること」を目標として取り組んだ。

具体的には、環境、防災、文化多様性、地域を柱に、①学校の歴史を探る活動、②地域の自然環境を知る活動、③ソーシャルスキル・トレーニング、④先輩から学ぶ活動を行った。

① 学校の歴史を探る活動

本学区は、市の発展に伴い、住宅地として開発された地域である。本年度、本校は創立 40 周年を迎えた。6 年生は、開校当時の学校や地域の様子を探るために、第一回の卒業生や当時勤務していた教師、創立 20 周年時に勤務していた教師を招いて、話を聞く機会をもった。また、40 年前と今の航空写真を見比べ、学校の建物が増築されていく様子や、町が発展していく様子を調べた。学校や地域が、多くの人に守られて発展したことを学んだ。

② 地域の自然環境を知る活動

本学区は、長い間、河川の氾濫による水害に苦しめられてきた地域である。4年生は、両親・祖父母からの聞き取り調査を通して、水害を自分の身近なこととしてとらえるようになった。平成20年の大きな水害を機に、河川の改修工事が行われ、ようやく安心して住める状態になったところである。市河川課と市防災危機管理課の方を講師として招聘し、河川整備の計画や水害から町を守るための工夫について話を聞いた。長い時間と多くの人の努力によって、命を守るための取組がなされているということを学んだ。

③ ソーシャルスキル・トレーニング

本校では、全校の約1割が外国籍の児童である。言語や文化、習慣の違いから、互いの気持ちを分かり合えないことがあり、トラブルも少なくない。また、相手の気持ちを汲み取ったり、自分の気持ちを言葉にして伝えたりすることが苦手な児童も多い。そこで、ソーシャルスキル・トレーニングを通して、友達への言葉のかけ方、自分の気持ちの伝え方を学び、円滑な人間関係の築き方を練習した。その結果、相手の気持ちを考えて話したり、自分の気持ちを正確に伝えるために努力したりする姿が見られるようになった。

④ 先輩から学ぶ活動

自分の夢をもち、夢を語り合うことで、児童の自己有用感を高めることができる考えた。そこで、自分の夢をかなえたり、夢に向かって挑戦を続けたりしている本校出身の先輩から、話を聞く機会を設けた。第一回は、ダンススペース代表の市川透氏を招き、講演とバレエ鑑賞会を行った。第二回は、自転車ツーリストの溝口哲也氏を招き、実演を交えた講演会を行った。世界に出て活躍している先輩の話を通じて、夢をもつことの意義を感じ、自分も夢に向かって挑戦を続けたいという気持ちをもつようになった。



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 学校行事)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

「聞く・話す・伝える力をはぐくむ クラスが変わる! 子どものソーシャルスキル指導法」岩澤一美・著 2014 東京 ナツメ社

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

地域素材と環境プログラムを組み込んだ、生活科・総合的な学習の時間の年間指導計画（ESDカレンダー）を作成している。ESDカレンダーは、年度はじめに見直し、修正している。

H29年度の各学年の「テーマ」と＜内容＞は、以下の通りである。

1年「なかよし」＜季節・学校＞

2年「はっけん」＜自然・学区＞

3年「生命のつながり」＜働く人と環境＞

4年「安心・安全のふるさと城南」＜環境＞

5年「ともに生きる」＜福祉＞

6年「城南・岡崎の『誇り』を学ぼう」＜共生＞

特別支援「育てて調べよう 大豆パワー」＜自然＞

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

地域素材と環境プログラムを組み込んだ、生活科・総合的な学習の時間の年間指導計画（ESDカレンダー）を全学年で共有し、学びを積み重ねたり、異学年交流をして共同学習をしたりできるようにしている。

教材として取り上げたい地域素材や、子供たちに出会わせたい町の先生は、「地域素材・人材集」として集約している。現在、集約できているのは、地域素材は60、人材は50人（事業所）程度である。今後も開発を進め、引き続き集約していく。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

全家庭、全児童を対象に、教育診断アンケートを実施している。保護者は、「学校は特色ある教育活動を推進している」に対して94%が、「生命を大切に作る心を育てている」に対して89%が、「環境教育に力を入れている」に対して93%が、「あてはまる」と答えており、評価が高い。児童は、「地域の人から学ぶことが自分の役に立っている」に対して85%が、「総合では体験を通して学んでいる」に対して84%が、「思いやりや命の大切さを学んでいる」に対して95%が、「あてはまる」と答えており、自分の学びに対して肯定的にとらえている。しかし、「進んで自分の意見や感想を発表している」に対しては、64%の児童しか「あてはまる」と答えておらず、コミュニケーション能力の育成に課題が残っている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度)

※チェック事項 2-2 に対応

城南CITYカーニバルでは、生活科や総合的な学習での学びを生かした出店内容を考え、他学年や来訪者に対して学びの成果を発信することができた。また、カーニバルのエンディングでは、学びを発信した感想を発表し、自己有用感をもつことができた。さらに、自分の夢や、未来の城南学区がこうなってほしいという願いを話し合い、それを風船に託して空へ飛ばす活動も行った。自分の夢を実現する方法について考えたり、未来の城南学区の姿を想像したりする活動を通して、未来を予測・計画する力、多面的・総合的に考える力が育ちつつあると言える。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

3年生は、「生命のつながり」<働く人と環境>のテーマで学習する中で、地球上の生命のつながりについて考えた。そこで、NPO法人中部猿踊会三州マタギ屋の日浅一氏を講師として招聘し、野生生物と共生していくためには、頭数規制をしてバランスを保つ必要があることを学んだ。

5年生は、「ともに生きる」<福祉>のテーマで学習する中で、障害をもつ人と交流する機会をもった。NPO法人ハートフルフレンズの職員から、障害をもつ人の自立を支援することについて話を聞き、「心と環境のバリアフリー」が大切であることを学んだ。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

岡崎市内では、小学校7校と中学校4校の合計11の学校が、ユネスコスクールに加盟している。中でも、城南小学校の卒業生の約8割が進学する南中学校とは、ユネスコスクールとして連携して教育活動を進めていきたい。まずは、特別支援教室から交流を始めていく計画をしているところである。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項2-5に対応

児童は、ソーシャルスキル・トレーニングを通して、友達への声のかけ方、表情の読み取り方を学んだことで、優しい言葉で話そうとしたり、相手の気持ちを想像しようとしたりするようになった。また、自分の気持ちを伝えるためには、誤解のない言い方をしたり、そう思った理由を付け加えたりするとよいことを知り、トラブルを未然に防ごうと心がけるようになった。少しずつではあるが、円滑なコミュニケーションがとれるようになってきている。それが、自分のよさを見つけたり、成長を感じたり、自己有用感をもったりすることへもつながっている。

教育診断アンケートでも、「城南っ子は、元気なあいさつができ、学校に明るい雰囲気がある」の項目に対して、93%の児童が「あてはまる」と答え、前年度に比べて6%上昇した。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

平成30年度は、H29年度と同様に、「ふるさと創生 愛プロジェクト」を活動テーマとして、「夢をもち、ふるさとを愛する心を育てる教育」を進めていく。

「地域を愛し、愛着をもつ心を育てる」ことについては、地域素材や人材の活用し、人・もの・ことに触れる機会を設定していく。同時に学校創立50周年を視野に入れ、地域と学校が一体となって、子供を育てていく学校づくりを進めていきたい。

「夢をもち、自分を愛する心を育てる」ことについては、夢をかなえたり、夢に向かって挑戦を続けたりしている先輩から話を聞く行事を続けていきたい。城南CITYカーニバルでも、自分の夢や未来の城南学区について語り合えるようなイベントを、盛り込むようにしていく。自分を愛する心を育てることについては、今後もソーシャルスキル・トレーニングを積み重ね、相手と良好な関係を築けるようにしていく。自分のことも相手のことも大切に感じ、自己有用感を高めるようにしていきたい。